



新しい名称です、しかし協働の原則は変わりません

野生生物保全繁殖専門家グループ（Conservation Breeding Specialist Group: CBSG）は1979年から世界の絶滅の危機に瀕した生物の保全を支援してきました。

CBSGの会員とパートナーのネットワークは、最初は飼育下繁殖専門家グループ（Captive Breeding Specialist Group）と呼ばれ、動物園や水族館の生息域外保全活動を生息域内保全活動に結びつけることを支援し、遺伝学的及び人口学的に健全な個体群を維持するためのツールを提供していました。1994年に、CBSGの使命は生息域内の小規模個体群管理に助言することにまで拡大されました。この展開を反映するために、私達の名称を「飼育下 captive」から「保全 conservation」に変更しましたが、生息域外と域内の両方の個体群を対象とした包括的種保全計画を中心に取り組むことに変わりはありませんでした。

今、CBSGは再びその使命を大きく拡張することが求められています。世界の野生生物やその生息環境の全体的な状況が継続的に悪化していることを思えば、種保全計画策定は極めて重要で、その規模や有効性を増大する必要があることは明らかです。

IUCNの種保存委員会（SSC）は、種保全のための効果的活動を促進し導いていく上で、CBSGの包括的で参加型の計画策定プロセスと専門家集団の両方に価値があることを認めています。このため、新しいSSC委員長のジョン・ポール・ロドリゲスは、SSCの保全計画策定の有効性を大きく向上させる新しいイニシアティブをCBSGが担うように依頼しました。

この仕事を率いること、SSC全体のために私達の活動範囲を広げ影響を強めることを求められたことは、CBSGネットワークにとってたいへん名誉なことです。私達の活動を展開、支援してきた実績のある会員とドナーからなるCBSGのグループは誠実で熱心であり、このSSCの依頼を受けることができる立場にあります。私達のグループはSSCやIUCNの仲間達と共に、このチャレンジに立ち向かいます。

私達の使命の新たな展開に鑑み、SSC委員長と相談の上、グループの名称を活動内容により合うものとするを決断しました。

私達の名称を近く、**野生生物保全計画専門家グループ（CPSG）**に変更することを、最初にみなさまにお知らせいたします。

「繁殖」という言葉を「計画」に置き換えただけでなく、現在、会員の裾野はSSC全体から計画策定専門家を受け入れるように拡大しており、私達の活動の中で研修分野を増加し、新しいツールやプロセスの

採用や開発を行い、そして主に単一種を対象とした保全計画から複数種保全計画へと対象を広げつつあります。しかし変わらないのは、包括的種保全計画を策定するという私達の姿勢（現在ではワンプラン・アプローチと呼ばれています）、協働する・健全な科学に基づく・中立的ファシリテーションという原則、そして世界中の保全取り組みの有効性を向上させて絶滅の危機に瀕した生物を救うという使命です。

19世紀のフランスの評論家でジャーナリスト、小説家でもあったアルフォンス・カーは「変われば変わるほど変わらない」と書いています。変化と恒常性は硬貨の表裏であり、SSCにおける私達の責任の変化は活発で献身的な会員の恒常性抜きでは実現しなかったものです。この協働と支援はCPSGにとっても不可欠なものです。一緒に活動することによってのみ、私達は絶滅危惧種の将来を変えることができます。

この歴史的な一歩をご一緒に進んでくださることに感謝します！

オニー